

# ドローン 橋梁点検 4月に実証実験

## 愛河調査設計

愛河調査設計(名古屋市中南区、山本成竜社長)は、測量業務で培ったドローンの操縦技術や運用のノウハウを別分野でも活用できないか検討や情報収集を進めてきた。橋梁点検要領の改定により近接目視が緩和されたことから、これまで収集した情報を基にドローンの機体を選定、現実に現場と近接目視に代わるものとなり得るかを確認するため、4月に愛知県東栄町の桃源橋で実証実験を予定している。

山本社長は、「働き方改革や生産性向上を進めるに当たり、現場作業の省力化や効率化にはドローンの活用は欠かせない」と強調し、「測量業務でドローンなどのICT技術を活用して

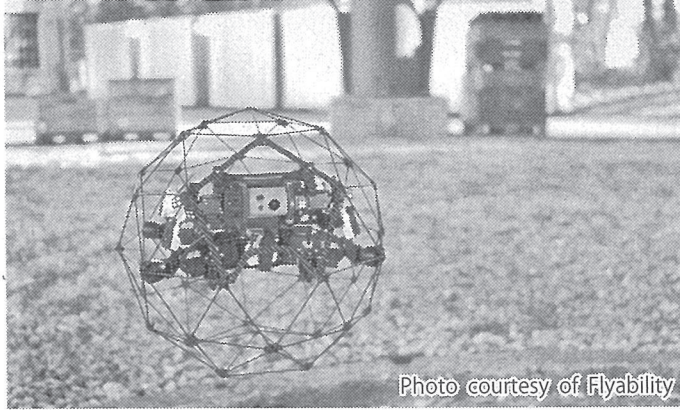


Photo courtesy of Flyability

生産性向上が図れた実績があるので、橋梁点検の分野にも積極的に取り入れ、生産性向上を目指す」と意気込む。

実証実験に使用する機体は、屋内施設の狭い場所や接触して

も機体本体と点検対象に損傷を与えないものを選定している。実証実験は全国的に行われているが、独自開発の機体が多く、機体本体が高額でコストを抑えるには厳しい状況だ。そのため

会社では、一般的に販売されている機体で、橋梁点検に特化していない汎用(はんよう)性の高い機体を選定した。橋梁点検は法令化されてから2巡目となり、1巡目の内容が網羅されている。今回は1巡目に撮影された画像と同じ位置や角度、撮影された画像からどの程度の損傷が確認できるか、2巡目で従来通りの点検と作業工数がこの程度で省力化できるかを確認する予定だ。

令和2年3月27日 建通新聞掲載